

臨床化学分析装置の測定前確認事項の
意識調査 その1 ～分析装置の測定前確認～

○八賀孝浩 岩田幸広 雨宮将史 末吉茂雄
高橋直樹 長谷健二（臨床化学検査研究班）

【目的】

現在、臨床化学成分の測定には、色々な汎用自動分析装置が用いられている。その性能はユーザの要望に呼応して向上しており、検体をセットし、ボタンを押すだけで、迅速に検査データを得ることができる。しかし、信頼性の高いデータを得るためには、ユーザが日々分析機器の状態や試薬・キャリブレーションの管理、管理血清の状態など様々な要因を把握する必要がある。今回、2009年千葉県臨床検査技師会サーベイ実施時に行った測定前確認事項のアンケートの集計結果を用い、各施設における測定前の確認実施状況と、サーベイ結果への影響について報告する。

【対象と方法】

2009年千葉県臨床検査技師会サーベイ臨床化学部門において『測定前確認事項について』と称してアンケートを行い、分析機器・試薬・キャリブレーションの3部門について調査した。

【結果】

分析機器のセルの汚れ・光源ランプの劣化・各プローブの劣化・攪拌棒（装置）の動きに関しては、回答施設のほとんどの施設で良好であるという結果が得られた。

【まとめ】

分析装置の種類により交換頻度は様々であるが、定期的に確認を行い、メーカーの推奨する状態での使用が望まれる。またプローブや攪拌棒・洗浄機構などの汚れは確認可能だが、セルや光源ランプの汚れや劣化を把握することは困難である。日常データに突発的に検査データに影響を及ぼす可能性があるため出来る限り定期的な交換が望まれる。

新松戸中央総合病院 検査科 047-345-1116